



シリーズ ～往年のラグー～ 経営トップが語る

我がラグビー人生と RWC2019™日本大会への想い

株式会社昌和製作所 代表取締役 中川俊一氏

早稲田からトヨタ自動車を経て、日本代表候補になるなどラグビーの第一線で活躍した中川俊一氏。現在では金属プレスや精密板金加工業を営みながら、地元名古屋を中心にラグビーの発展に貢献し続けています。今回はそんな中川氏にラグビーへの思いをうかがいました。

PROFILE

昭和57年(1982年)、早稲田大学卒業後トヨタ自動車に入社。世界トヨタでの現地現物主義によるモノ作りの業務を学ぶ。早大・トヨタともに日本トップレベルのラグビー部に所属し、ポジションはスピードあるウィングでタックルマンとして活躍。昭和61年(1986年)、日本選手権で大東文化大学を破り「ラグビー日本一」に輝く。平成元年(1989年)、父が経営する昌和製作所に入社、トヨタのモノ作り哲学を経営に活かし業容を拡大。平成10年(1998年)、同社代表取締役に就任。

ラグビーを始められたきっかけは何ですか。

私が中学・高校生の頃、早稲田は大学のラグビー界で60連勝していました。当時、明治や日体大はラグビーで有名な高校出身の選手が多く在籍していましたが、早稲田は15人いる選手のうち該当するのはたったの2-3名。にもかかわらず、早稲田ではじめてラグビー部の門をたたき、その後日本代表や代表候補になったという選手が珍しくなかったんです。それで、「私でもやれるんじゃないか」という思いから、ラグビーへの関心も一気に高まりました。わたしがトヨタ自動車に入社するきっかけを作ってくれたトヨタ自動車ラグビー部元監督の金指氏も、未経験から大学ラグビーを始め早稲田でレギュラーとなり、日本代表にまでなった方です。私はもともと中学まで野球をやっていましたし、子どものころから中田ドラゴンズのファン。もしもあの日、ラグビーを選ばずに野球をやっていたらどうなっていたのかな、とふと考えることはあります。

ラグビーには、どんな魅力があるでしょう。

早稲田では体育の教員免許を取得しましたし、これまでにさまざまなスポーツをやりましたが、ラグビーのように1チーム15名という大人数でプレーする競技はありません。人数が多い分、チームをいかにまとめるかということが重要になります。監督やキャプテンがチームをどう率いて、他のメンバーがそれにどうついていくか。学年やポジションなどの役割別に、試合や練習のあらゆる場面にあわせて対応することの大切さを学びました。

2014年には国立競技場で早明戦のレジェンドマッチに出場されました。

トヨタのラグビー部をやめて一線を退いた後も地元のクラブチームでラグビーを続けていましたが、50歳を過ぎてからは名古屋の高校ラグビー部の子どもたちの世話役をし、菅平の合宿にも帯同していました。そんな日頃の活動が、ラグビー現役時代の実績に加えて評価されたようです。歴代キャプテンや日本代表のOBが選ばれる中での選出だったので、本当に嬉しかったですね。やっぱり国立だけは特別。他と雰囲気の違いが。そんな大舞台での感動を忘れられないからこそ、アーティストやアスリートたちが復帰するのもかもしれませんね。

会社経営において、ラグビー経験がどんな影響をもたらしているとお感じですか。

実家の工場を継ぐこともあり、現地現物主義のトヨタの哲学、生産技術関連の現場で経験が積めたことは大きな財産です。私の会社は零細企業なのでトヨタとはとても比較になりませんが、トヨタでの仕事やラグビーの経験をもとに自分が先頭に立って社員を引っ張りまくっています(笑)。

2019年のRWCでは会場の一つに豊田市が選ばれました。大会に向けて期待や課題はありますか。

豊田市と同じRWC会場の一つに釜石市があります。以前、まだ誘致が決まる前に釜石を訪れたことがあるのですが、街全体にラグビー大会の歓迎ムードが溢れていたことがとても印象的でした。街頭の装飾はもちろん、お店の人までも気さくに声を掛けてくれて。あんな雰囲気、ぜひ豊田市にもつくってほしいですね。豊田市民がラグビーを心から応援してくれるような大会にしてほしいと切に願います。会場となる豊田スタジアムは、特に名古屋方面からのアクセスが課題でしょうか。官と民がいついかなって取り組むことが大事です。この機を活かせば、豊田市はさらに魅力ある街になれると思います。そして、子どもたちがラグビーに対して興味を持ってくれるよう、ラグビーの指導者の育成も必要でしょう。

ラグビーがより多くの人に愛されるスポーツになるには何が必要でしょう。

まずは、大学の古豪4校、早稲田・慶応・明治・同志社大学が強くないとラグビー界は盛り上がりません。チームカラーがハッキリしているこれらのチームがいい試合をすれば、自ずとラグビー人気が高まると思います。そしてチームにスター選手を設けること。ラグビー日本代表がいい例です。トヨタ自動車ヴェルブリッツも、今期から新監督を迎えていい転機になるのではと、OBとして大いに期待しています。

社長にとってラグビーとは何でしょうか。

ラグビーをやっていて良かったなと改めて思います。ラグビーでは、自分の与えられたことを一つひとつ確実にこなすことが勝利につながります。私は、ラグビーを通じて素晴らしい仲間がたくさんできました。そして、そのつながりが、野球やサッカーやゴルフなど、各界の方たちへと今なお広がっています。ラグビーで生まれた縁が、全く異なるジャンルでまた生きてくるなんて、何だか面白いですよ。



トヨタ自動車プレーする中川社長